

施策番号 1-1-4	施策名 地域林業の推進	基本目標	農業を軸とした活力と賑わいのあるまちづくり		
		政策名	持続可能な農業の基盤整備と支援の強化		
	主管課	農林課	課長名	佐々木快治	内線 410
	施策関係課				

## 1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図			結果
森林が持つ多面的機能の理解促進と、機能に応じた森林の整備・保全をすすめます。		町民・町有林・私有林・森林所有者		・森林が持つ多面的な機能について町民の理解を深める ・計画的な保育・造成等により森林を適正に管理する			森林が持つ多面的・公益的機能(災害防止・水源かん養・生物多様性の保全・生活環境の保全・地球温暖化防止など)が発揮される
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度(予想)	2022年度目標	
① 森林が持つ多面的機能を知っている町民の割合	住民意識調査	%	85.9	85.9	85.9	90.0	
② 適正に管理されている町有林面積の割合	森林調査簿より	%	99.3	98.9	98.9	99.0%以上	
③ 適正に管理されている私有林面積の割合	森林調査簿より	%	94.6	94.6	94.6	95.0	
④							
成果指標設定の考え方	①森林整備の必要性の理解度を段階的に高めていくという考え方により、目標を90%としたもの。 ②限りなく100%に近い適正管理面積を目指すもの。 ③策定時と同程度の高水準を維持する考え方により設定。						

## 2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算
施策事業費(千円)	51,257	74,474
人工数(業務量)	0.8924	1.1000

## 3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2019年度の成果評価	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	成果指標①については例年並み。②③については、元々100%に近い割合であり、これまでの継続した取組により高水準を維持しているものとする。
②2022年度の目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	各成果指標ともに目標値に近い水準となっており、今後の森林環境譲与税を活用した事業展開等により、目標の達成は期待できるものとする。
(2) 施策の成果評価に対する2019年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	町有林管理事業 民有林振興事業 ふるさと森づくり事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・町有林管理事業、民有林振興事業ともに、補助制度などを活用しながら適宜、必要な施策を実施した。 ・ふるさと森づくり事業において、森林の重要性を理解してもらうことを目的に「町民植樹祭」を行ってきたが、植樹祭に適した実施個所の確保が難しくなっている。		

**(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果**

進捗結果	A	B	C	D	E
				○	

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

**4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等**

施策を取り巻く状況と今後の予測	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の気候変動等により、森林の重要性や環境保全、防風機能が再認識され始めている。</li> <li>・幹線防風林整備を望む声があり、防風林の有用性や効果的な配置等の根拠となる調査を実施する必要がある。</li> <li>・森林環境譲与税の導入や新たな森林管理システムが創設されるなど、森林整備の重要性が高まってきている。</li> </ul>
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	

**5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)**

<p>取組① 幹線防風林の計画策定・整備 風害に直面している地域から、幹線防風林の整備を求める声があがっている。町として現状を調査し、客観的データに基づく防風林の整備計画を策定し整備を進める。</p> <p>取組② 森林環境譲与税導入に伴う森林の適正管理 森林環境譲与税の導入に伴い、適正な森林管理を進めていくため、私有林の管理状況や所有者の意向調査を実施する。</p> <p>取組③ 周知・啓発事業の見直し 森林の持つ多面的機能を周知する事業として実施してきた「植樹祭」について、参加者の減や固定化、実施箇所等の課題を解決するための見直しを行う。</p>
--

**6. 総合計画推進委員会(庁内評価)**

評価	いずれの成果指標も策定時と同程度であり、高水準の指標を維持しているが、進捗については変わらないと評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果				○
今後の取組に対する意見	幹線防風林については、費用対効果を含めて検討する必要がある。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した				

**7. 総合計画審議会(外部評価)**

評価	成果指標は高い水準を維持しているが、この事業の結果が出るのは来年以降と考えることから、策定時と比較して変わらないと評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果				○
今後の取組に対する意見	防風林の有効性や効果的な配置等の調査については、「地域資源を活用した観光の振興」にも繋がるものであるため、計画どおり進めてほしい。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した				